静岡県立大学　食品栄養科学部　生活健康科学研究科　同窓会会報

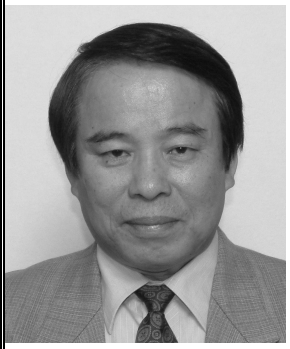
2010 年 1 月 31 日発行
第 13 号
発行者　創星会
〒422-852　静岡市駿河区谷田 52-1
（静岡県立大学内）
（食品栄養科学部　食品衛生学研究室）
TEL: 054-264-5528
HP: http://www.geocities.co.jp/us_souseikai/
E-mail: masudas@u-shizuoka-ken.ac.jp

題字：星　猛　　元静岡県立大学学長

☆創星会とは・・・静岡県立大学食品栄養科学部および大学院食品栄養化学専攻の卒業生・修了生と教員からなる会です。創立は平成 7 年 11 月 4 日で、現在会員数は約 1,000 名となりました。本会は、会員相互の連絡協調および会員と母校との連絡をとりまとめ、会員や母校の発展のために活動しております。「創星会」という名称は、本学部の独創性を反映させ、また、卒業生の中からスターとなるような人物を生み出したいという思いから、諸先生方が命名してくださいました。

学長室から「こんにちは」

静岡県立大学　学長　木苗直秀



創星会々員の皆様にはお元気で御活躍のことと存じます。さて、私は平成 21 年 3 月 10 日に第 5 代静岡県立大学学長を拝命し、8 ヶ月余りが経過しました。思いもよらぬ大役ゆえ、戸惑いもありましたが、「個を拓き、強い絆で知を発信」をキャッチフレーズとして、5 学部、5 大学院研究科、短期大学部に在籍する 3,400 余名の学生、420 余名の教職員とともに充実した日々を過ごしております。本学は開学して 23 年目を迎え、さらに平成 19 年 4 月の法人化に伴い、教育と研究両分野で、各部局の個性を尊重しつつも、国際化を目指しており、機動力や広報力が益々重要になっています。近年、大学の地域貢献、社会貢献が強く求められておりますが、本学では高校での出張講義、一般の方を対象とした公開セミナー、国内外の大学との連携、企業や公設試験研究機関との共同研究を積極的に進めています。文部科学省で採択された COE（Center of excellence）プログラムは８年目を迎え、生活健康科学研究科と薬学研究科が食薬融合、薬食同源による健康長寿研究を通して国際的に通用する若い科学者の育成を推進しています。また昨年、独立行政法人科学技術振興機構で採択された地域結集事業では新たな機能性を有する茶飲料の開発と世界市場への展開をめざした研究が進んでいます。リーマンショック後の長引く経済不況、新型インフルエンザの世界的流行、新政権による各種事業の見直しなどが社会的に話題となっている昨今ですが、このような時代だからこそ、知恵と勇気、そして情熱を持って果敢にチャレンジしていく姿勢が大切であると考えています。創星会々員の皆様には食品栄養科学部・食品栄養科学専攻とともに、本学に対しまして今後とも温かい御助言を賜わりたく、よろしくお願い申し上げます。

末筆となりましたが、皆様方がより一層輝かれることを祈願しております。お時間を見つけて、学長室にお立ち寄りいただけますことを楽しみにしております。

（平成 21 年 11 月 30 日記）

平成２１年度　食品栄養科学部のトピックス

食品栄養科学部長　中山　勉先生（食品分子工学研究室 教授）

本年度、本学部にとって一番のトピックスは木苗直秀先生が学長になられたことだと思います。といっても、本学部だけがひいきにされているということはまったくなく、むしろ緊張感に満ちた毎日を送っております。なお、学生さんとの接点が多い役職として学生部長に丹治健一先生、健康支援センター長に熊谷裕通先生、生活健康科学研究科長に小林裕和先生（留任）、学部長に私（留任）が着任しました。５人とも午年ですので、大学・研究科・学部の発展のために馬力を結集していきたいと思います。

さて、最近は大学における広報の重要性がいままで以上に認識されております。本学部もいろいろな形で広報活動を行っておりますが、例えば受験生の知りたい情報として、ホームページ（学部のオリジナルサイト）において、卒業生の勤務先を（個別に承認をいただいた後に）、掲載しております。皆様のご迷惑にならないように今後も続けていきたいと思いますので、ご協力のほど心からお願い申しあげます。またご意見があれば、是非お寄せ下さい。

大学：「減」→「進化」の「真価」

大学院生活健康科学研究科研究科長　小林裕和先生　（植物機能開発研究室 教授）

世相を表す 2009 年「今年の漢字」は「新」らしい．私は，「減」を選びたい．給料が「減」った．ボーナスが「減」った．博士後期課程の志願者が「減」った．食品生命学科の競争率が「減」った．研究と教育に使える時間が「減」った．

グローバル COE プログラム，科学研究費補助金，および日本学術振興会・特別研究員などの経費が「行革刷新会議・事業仕分け」で「減」った．これらは，教育，研究，さらに大学の存在意義が問われているとも言える．古今東西，学問や芸術は，安定な政治と豊かな経済の下で生まれるもので，例えば，江戸時代では「元禄」で発展した．さて，「未曾有の金融・経済危機」に先立ち，2004 年度から始まった国立大学の独立法人化，それに引き続く公立大学の独立法人化は，自己努力による大学機能の効率化という大義名分の下に，国や地方公共団体からの大学の切り離しであった．静岡県立大学は，2007 年度に独立法人化し，これを機に，「静岡県公立大学法人中期目標」とそれに基づく「中期計画」が策定・公表され，その遂行状況を毎年報告している．また，2007 年の学校教育法の改定により，大学は文部科学大臣の認証を受けた「認証評価機関」による評価を受けることが義務付けられた．これらにより，大学の活動は社会に対して以前より可視化された一方，評価・報告のための多大の負荷を教員を含む現有職員に課すことになった．お金がない，時間がないでは，大学活性化の見通しが立たないどころか，低迷の負のスパイラルさえ懸念される．生物学的には滅びる物は滅びて，新しい物が「進化」する．大学が，いや本学が，白亜紀末期の恐竜たるかほ乳類たるか？　大学とその構成員の「真価」が問われている．

～新任の教員の紹介・平成 20 年度～

大橋　典男先生　（教授：微生物学研究室）

はじめまして。平成 20 年（2008 年）4 月 1 日付で、微生物学研究室の教授に着任しました大橋典男と申します。私は、3 月まで本学の環境科学研究所・環境微生物学研究室の教授をしておりました。従いまして、食品栄養科学部・微生物学研究室へは異動ということになります。これも何かの縁と感じております。微生物学研究室は、2008 年 4 月から栄養学科（現栄養生命科学科）から食品学科（現食品生命学科）に移りました。しかし、栄養学科の講義・実習は、これまで通り担当しております。私の専門は病原微生物ですが、食品栄養科学部に移ってからはプロバイオティクス研究も始めました。皆様はご存じと思いますが、プロバイオティクスとは健康維持を目的として摂取する「生きた有用細菌を含む食品」のことです。その代表的なものとしては、腸内環境改善効果が期待できる乳酸菌を含む「ヨーグルト」や健康維持を補助する「納豆（納豆菌）」などが知られています。その中で、本研究室では、特にプロバイティクス効果のある新たな乳酸菌を、静岡特産の漬け物類から見出して、有効利用したいと考えております。今後とも宜しくお願い申し上げます。

萱嶋　泰成先生　（助教：人類遺伝学研究室）

2008 年 4 月 1 日より、人類遺伝学研究室の助教となりました萱嶋泰成（かやしま　やすなり）と申します。三島市にある国立遺伝学研究所で大学院博士課程を過ごし、ショウジョウバエを用いた発生生物学研究で学位を取得しました。その後、神奈川県の慶應義塾大学生物学教室に助手として赴任し、ニワトリを用いた色素細胞の分化に関する研究や、文系大学生のための科学教育プログラムの開発などに従事して参りました。本学では、ショウジョウバエを用いてヒトの生活習慣病関連遺伝子の機能解析や、食品成分の有用性を個体から遺伝子のレベルで検証出来るショウジョウバエ系統の開発、などを行っていきます。大学進学で故郷の宮崎から上京後、多くの時間を神奈川県で過ごしてきたのですが、大学院、そして現在と、「ショウジョウバエで」自身の研究活動の研鑽を積む場はなぜか静岡県であり、静岡県には不思議な「縁」を感じます。食品栄養科学部生の方とは、1 年次の生物学実験の実習授業で先ず密接に関わることになると思います。生物学を行う上での土台の一つは、「観る」（見るではない）ことです。そしてこの「観る」力があることは、生物学を行うだけに限らず専門課程や今後の人生においても武器となる重要な能力です。微力ではございますが、実習授業や卒業研究で用いる生物学的手法を通じて、「観る力を持った」人物の育成に力を発揮できればと考えています。今後ともご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

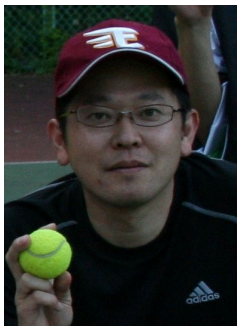
成川　真隆先生　（助教：食品化学研究室）

平成 20 年 4 月に食品化学研究室の助教に着任いたしました。渡辺先生の下で修士課程を終了後、京都大学にて学位を取得後、東京大学でのポスドク生活を経て本学に赴任いたしました。6 年ぶりに県立大学に戻り、多くの変化に戸惑いも覚えましたが、母校において再び研究できることをうれしく思っています。研究を通して、大学の発展に貢献できればと考えております。よろしくお願いいたします。

～平成 21 年度～

栗木　清典先生　（准教授：公衆衛生学研究室）

「Enchanté（はじめまして）」。平成 21 年 4 月 1 日に公衆衛生学研究室の准教授に着任した栗木清典と申します。これまでは、愛知県がんセンター研究所の疫学・予防部（日本学術振興会 PD など 6 年間）、昨年 1 年間はフランスの国立衛生･医学研究所の外国人特別 PD として Institut de cancérologie Gustave Roussy（国立がんセンターに相当）で、がん疫学、栄養疫学、分子疫学を中心に研究を展開してきました。この経験を基に、本学では、がん、循環器疾患、糖尿病、骨粗鬆症などの生活習慣病や認知症の発症予防に対して、1）従来は検討できなかった病因や病体の解明、2）新しい診断、治療の方法の確立、3）新現象の発見や新しい仮説の提言を実現したいと考えています。同時に、国民がその成果を享受できるように、4）医療や健診・検診に導入し、5）食生活の改善による一次予防の効果をフォローアップできる体制の確立を目指しています。学生・大学院生の教育に関しては、新しい切り口で生活習慣病の一次予防対策の立案と実践ができるように、日本、アジア、欧米諸国の栄養疫学研究の最新の報告書を理解することを目指します。そして、時間、地理、民族（文化および遺伝子要因を含む）などの要因別に、食生活と疾病構造の関連を系統的にまとめて Evidence Based Nutrition を構築するための高度な専門知識と技能を取得した人材の育成に努めたいと考えています。皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



増田　修一先生　（准教授：食品衛生学研究室）

創星会の皆様、平成 21 年 4 月より、木苗直秀先生の後任として、食品衛生学研究室の主任教員として着任致しました増田修一です。創星会の皆様はご存知の方もいらっしゃいますが、食品栄養科学部一期生及び生活健康科学研究科修士二期生を卒業し、また、現時点ではこの会の会長をしております。私は。大学院卒業後、民間企業に 6 年間勤めた後、本学部に 7 年間、木苗先生の指導のもと、助手（助教）として勤めました。木苗先生には、研究や学生への教育だけでなく、さまざまな点で叱咤激励されながら指導され、多くのことを学ばせて頂きました。今後は、それら学んだことと、さらに私自身が会社員時代に得たことを加えて、学生に対し、教えていきたいと考えております。また、このように学生への指導する上で、常に学生の気持ちや立場を考えて行動し、お互いに理解し合いながら、気持よく卒業してもらえるように、自分自身も努力していこうと思います。卒業生、修了生の皆様には、これからも気軽にいつでも大学の方に足を運ばれまして、２階の食品衛生学研究室まで足を運ばれますよう、よろしくお願い致します。

円谷　由子先生（講師：公衆栄養学研究室）

平成 21 年 12 月 1 日付で、食品栄養科学部の講師に着任しました円谷（つむらや：旧姓常賀）由子と申します。本学の卒業生で５期生になります。栄養学科を卒業後、病院の管理栄養士として勤務し、その後青年海外協力隊に参加、栄養士隊員として南米エクアドルの病院において約２年半現地の人達への栄養指導や栄養に関する知識の普及を行ってきました。帰国後は、大学院生活健康科学研究科食品栄養科学専攻に入学し修士課程を修了後、厚生労働省に入省、健康局生活習慣病対策室において、健康づくり施策の推進、国民健康・栄養調査の実施や管理栄養士国家試験の運営など国の栄養行政に約７年間従事し、この度、御縁あって母校に教員として戻ってまいりました。管理栄養士として様々な経験をさせていただいたことを後輩達に伝えながら、社会に求められる優秀な管理栄養士の養成を行うことが私に課せられた使命と思っておりますので、微力ながら母校に貢献してまいりたいと思います。卒業生の皆様方には、様々な面で御支援、御協力いただければ幸いです。

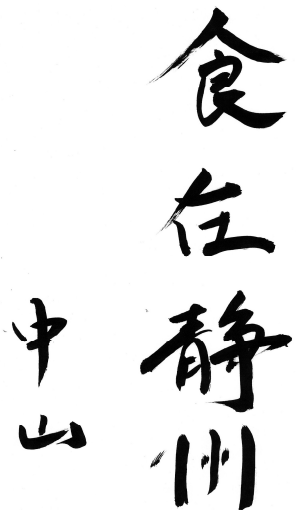
佐野　文美先生　（助教：フードマネジメント研究室）

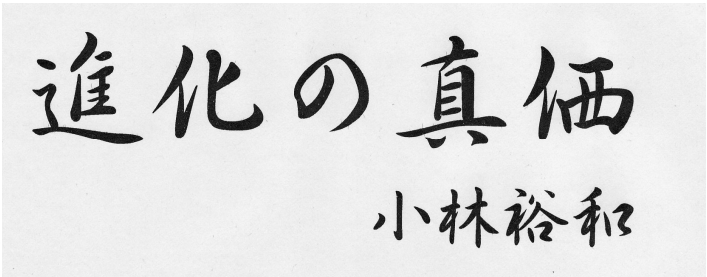
非常勤で勤めていたときから今年で４年目になります。最近の学生は、挨拶や返事など至って基本的なことを軽んじ、さらに人とのかかわりを苦手とする学生が少なくありません。私は、栄養士として本来の力を十分に発揮するには、コミュニケーション能力が重要であると感じています。また、大学は社会に出る前に品位を身につける最後の砦だと考え、特に調理や給食などのより現場に近い実習を通じて、知識や技術だけでなく、せんもんかとしての基本姿勢やコミュニケーションの大切さを教えるべきだと思っています。実習では様々なハプニングが起き、実習を円滑に運営することは大変ですが、学生の成長を間近で見てとれることは、次世代を創る教育者という立場にある私にとって何より嬉しいことです。研究においては、栄養士の活動の場をより身近な場所、いわゆる「川下」に設け、基礎栄養学の知識を実践に生かすための環境整備を図るため、現場と連携して研究を進めたいと思います。

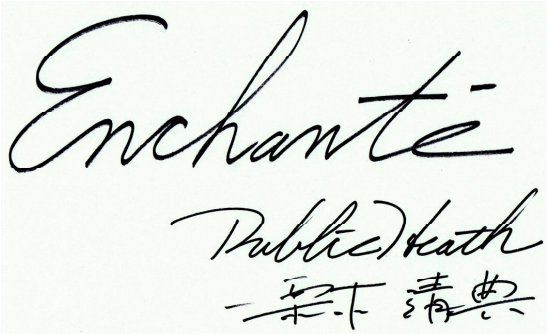
佐久間　理英先生　（助教：臨床栄養管理学研究室）

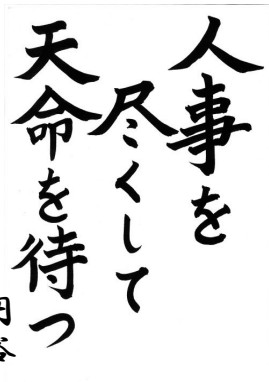
2009 年 4 月より、臨床栄養管理学研究室の助教に着任いたしました佐久間理英と申します。私は、徳島大学で学部、修士、博士課程を過ごし、この静岡県立大学が初めての赴任地となります。こちらに赴任してきて、四季折々の植物に囲まれた美しいキャンパス風景や、充実した研究・教育環境に感動し、このような恵まれた環境で働かせていただけることを大変嬉しく思っています。私はこれまで、主に「食後高血糖および高インスリン血症を抑制する食品」のヒトに対する有効性の評価をテーマに研究を行ってまいりました。ヒトを対象とした研究は、思い通りに進まず苦労することも多いのですが、研究を通して多くの方々と交流を持てることが魅力の一つだと考えております。この静岡でも、研究や教育を通して生まれる人と人とのつながりを大切にしていきたいと思っております。まだまだ未熟者ですので、ご指導ご鞭撻をいただければ幸いに存じます。今後とも何卒宜しくお願いいたします。

～一筆展・先生方の今年のひとこと～









☆会計中間報告（平成 22 年 7 月 20 日現在）　会計 大石

年月日	項目	収入	支出	残高
H19.10.1				694,943
H20.2.15	荒川先生退官講演花代・記念品代（振込手数料込）		24,570	670,373
H20.4.10	H19 年度卒業・修了生（110 名）会費	220,000		890,373
H20.4.10	H19 年度卒業パーティー残金	211		890,584
H20.5.13	学部生入学時同窓会費	609,265		1,499,849
H20.11.5	第 7 回創星会懇親会費（差額分・振込手数料込）		124,968	1,374,881
H21.1.21	最終講義記念品代（木苗先生・加治先生・板井先生・斉藤先生・白木先生）		69,630	1,305,251
H21.2.7	退官講演花代（木苗先生・加治先生・板井先生・斉藤先生・白木先生）		23,000	1,282,251
H21.5.7	学部生入学時同窓会費	539,860		1,822,111
H21.5.13	H20 年度卒業・修了生(86 名）会費	172,000		1,994,111
H21.10.26	グローバルＣＯＥテレビ放送（振込手数料込）		26,460	1,967,651
H22.2.8	貝沼先生・廣田先生退官講演花代・記念品代（振込手数料込）		40,420	1,927,231
H22.3.26	パート賃金（１～3 月分）		60,000	1,867,231
H22.4.1	調整費（H19.10.1～H22.4.1）	3,630		1,870,861
H22.4.20	学部生入学時同窓会費	619,860		2,490,721
H22.6.3	H21 年度卒業・修了生(109 名）会費	218,000		2,708,721
H22.6.17	パート賃金（5 月分）		10,000	2,698,721
H22.7.20	ホームページ作成料、管理費（Ｈ22.6～H23.5）（振込手数料込）		63,620	2,635,101

【創星会ホームページにおける求人情報等の掲載について】

現在、大学の研究室や教員に、卒業生・修了生に対する求人情報が来ております。そこで、創星会のホームページを改編して、随時求人情報を載せることにしました。

会員の皆様には、求人情報を確認して頂き、ご希望の方がおりましたら、担当職員または創星会事務局までご連絡下さい。

今後も、創星会ホームページに大学、学部、研究科の情報等を随時載せますので、よろしくお願い致します。

創星会ホームページ：http://www.us-souseikai.com/

【会費未納の方へ】

昨年 10 月に開催された静岡県立大学創立 20 周年会に参加されなかった方は、年会費を同封の振込用紙にて下記の郵便振替口座に納入してください。一回の振込みは 2 年分、2000 円です。未納の方には次回以降の会報等の発送を行いません。創星会は皆様の会費によって運営されています。ご協力の程お願いいたします。

口座番号: 00810-8019320、名称: 静岡県立大学食品栄養同窓会　創星会、金額: 2000 円

【住所を教えてください】

創星会会報を送付した際に、返送されてしまう場合が多数ございます。住所変更等ございましたら創星会事務局(TEL 054-264-5528、E-mail: masudas@u-shizuoka-ken.ac.jp)または学年幹事までご連絡ください。